

横浜市小学校社会科研究会

3 学年部会

## 研修会記録

第 8 号

令和5年 2月 8日

横浜市小学校教育研究会

会長 徳江 武司

横浜市小学校社会科研究会

会長 加藤 和之

同 学年部長 岡村 伸一郎

【提案日時】

1月 11日 (水)

【会 場】

横浜市立 平沼小学校

提案 権正 倫判 先生 (牛久保小)

司会 本間 宏志 先生 (生麦小)

記録 益満 順也 先生 (三ツ沢小)

### 1 提案内容 分析提案

市一斉授業研究会 単元名「横浜の農家の仕事～Ｙさんのほうれん草作りに学ぶ～」

### 2 提案者より

問いをもちながら積極的に生活に密接しながら横浜の野菜に興味をもつ手だてをうった。分かったことを共有することで本気の学習問題をつくる手だてをとった。前時から考えると直売所に出荷していることについて事前にある程度解決できていた。

#### 視点①

○本気の学習問題の成立過程

成果

- ・子どもたちが材に寄り添っていて、実感的な理解をすることにつながった。「Ｙさん」という言葉が頻繁に出ていて、Ｙさんの畑での体験をもとに語る児童も多かった。
- ・導入で「横浜市で作られる野菜の分布図」を用いたので、「横浜市の農家の仕事はどうやっているのだろう」という単元を見通す学習問題が成立した。

課題

- ・本気の学習問題に対し、疑問をもつ児童が少なかったのではないか。市場に出荷するよさを知っているからこそ、直売所に出荷する理由を考えられたのではないか。



「市場に出荷することと直売所に出荷することのちがいを明確にするための手立て」

- ・手立てとしては売れ残りについて比べるとよかったのではないか。市場ではすべて買い取ってもらえるが、直売所では売れ残りは引き取ることになる。ここで問いが生まれたのではないだろうか。

## 視点②

○提示資料が、子どもの考えを深める資料になっていたか

成果

- ・Yさんの思いと消費者の思いのつながりを見るためには、資料が効果的だった。直売所の声がよかった。

課題

- ・資料が子どもの思考をゆさぶることができていたのか。この資料がやっぱりそうか。子どもの変容につながるものだったか。

○社会的事象の意味に迫るために、「お客さん」という言葉を子どもたちが「広く市内の人々」ととらえるための手立て

成果

- ・意図的指名がよかった。本時の中でたくさん見られた。子どもの話をしっかり聞いていた。

課題

- ・児童によっては、直売所の近くのお客さんなのか、横浜市民なのか。とらえがバラバラだった。本時で有効な手立ては何だったのかグループ討議で話をしてもらいたい。

## 3 グループ協議

- ・直売所と市場のメリット・デメリットを比べる、情報の与え方
- ・先に地産地消を知っているので、そこにズレが出てこない。
- ・新鮮やおいしいというのは、お客さんの主観
- ・Yさんに寄り添いすぎていたのではないかな。直売所=いいことになってしまっている。冷静に公平に見てみよう。
- ・販売の単元を先にやっているとまた違った展開になっていたのではないかな。
- ・直売所にフォーカスしてしまうと市内の生産について考えると難しい。

<講師の先生より> 日枝小学校 校長 加藤 智敏 先生

比べる対象をもってくることが大事。今回の場合は、直売所と市場。整理分類して、こういうことかと思わせることが大事。儲けが安定しているのか不安定なのか。どう思考させるのかが大事。ワークシートで分けたりする活動を通して、だから直売所です出すかということを考えさせることが大事。

<講師の先生より> 下野庭小学校 校長 黒木 英晴 先生

一斉授業研究のビデオを共有できるようにするとよい。その上で分析提案に出席するとよりよい会にできる。資料をいつ出すのか。タイミング、余計にだしてしまうなどについて、自分だったらどうするのか。どういかしていくのか。授業分析は価値のある事。直売所をどうやって市につなげていくか。地下鉄を通して市全体につながっていることも考えることができる。

文責 北沢 宏 (間門小学校)